

(様式1)

学校名	福島県立安積高等学校	校長	関 博之
住所	福島県郡山市開成5丁目25の63		
TEL	024-922-4310	ホームページアドレス	http://www.asaka-h.fks.ed.jp/

タイトル

「安積高等学校スーパーサイエンスハイスクール事業
研究成果報告会および課題研究発表会」

取組みの概要

安積高校は、平成14年度から平成18年度までの5年間にわたって、文部科学省のSSH(スーパーサイエンスハイスクール)の指定を受け、研究をして参りました。今年度は最終年度となり、これまでの取組の内容についての報告会と、生徒達による課題研究の発表会を、本校のシンボリック的存在でもある安積歴史博物館の講堂で行いました。

内容

文部科学省、福島県教育委員会、大学の関係者を始め県内の小、中、高校の先生方、本校の生徒、教職員など250名近くの出席者を前に発表が行われました。

英語による研究の概要説明から始まった生徒達の課題研究発表は、高度な研究内容でもあり、超高校級との声も多かったようです。東北大学女川臨海研究所研修でヒントを得た「マツバガイの北限調査」～マツバ様に愛を込めて～、先輩からの継続研究である「真性粘菌の光受容タンパクの遺伝子解析」～粘菌片想い(友達以上恋人未満編)～、という二つの研究テーマを4つの班に分かれて発表しました。ほとんど自分達でまとめ上げ、随所に工夫を凝らしたプレゼンテーションはわかりやすく、ユーモアを交えた発表は自信にあふれたものでした。勉強や部活動との両立は大変ですが、いつも、明るく生き生きとして、探求心にあふれ、本当に研究が楽しくてしょうがないという様子で、将来が楽しみです。今後は、この成果をさらに継続発展させ、他校にも普及させる努力をしていきたいと思ひます。

参加者の感想

英語によるスピーチには驚かされました。これまでのノウハウを今後も後輩に引き継いで欲しい。生徒さんの進路の実現を願っています、日本の科学をリードする人材になって下さい。生き生きと目標を持って学習に取り組んでいる姿に感激しました。現在、理科離れが問題になっていますが、感じ考え体験できる理科を小学生のうちから味あわせていきたいと思ひました。(教員) 難しい内容だったけど聴いていてもものすごく引き込まれました。筋道を立てた説明でわかりやすかったです。安積のSSHがこれほど素晴らしいものとは思っていませんでした。(生徒)



東北大学女川臨海研究所にて